希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100−8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿をお待ちしています。被災者の今困っていることも募集します。投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

東日本大震災 サポート情報

25日現在

イベント

〈宮城県〉
ホテルでコンサートなど 宮城県南三陸町のホテル観洋（0226・46・2442）が被災者のために複数のイベントを企画している。ホテルで生活する被災者だけでなく、誰でも参加できる。無料。ボランティアの宿泊も受け入れている。
26日＝谷口博章さんのピアノコンサート、19～20時▽28日＝リラックスストレッチ、13時～13時45分▽29日＝香川県青年部協会による雅楽演奏会、9時半～10時▽30日＝山梨災害チャリティーアクションによる音楽の演奏や語り、18時半～。
南三陸町福興市 26日10～14時、スポーツ交流村（志津川沼田56）の多目的広場。全国商店街ぼうさい朝市ネットワークの協力で、全国各地の特産物や衣料品、日用雑貨を低価格で販売する。
〈東京都〉
どうぶつ家族の会 震災チャリティー大集会 獣医師らで作る「どうぶつ家族の会」が7月2日、大手町サンケイプラザ（東京都千代田区大手町1）で被災動物の支援イベントを開く。市民講座（13時～18時半、無料）ではタレントの関根勤さんによるトークやオークション、被災地の獣医師らが現状報告するパネルディスカッションが行われる。収益金は動物を収容するコンテナ購入費に充てる。同会のウェブサイトhttp://www.doubutsu-kazoku.jp/で事前申し込みが必要。問い合わせは実行委toiawase@doubutsu-kazoku.jp
前さ行ぐどぉ！新東北 首都圏在住の秋田県出身者らで作る「秋田ふるさと応援団」が7月2日14～17時、日本青年館国際ホール（東京都新宿区霞ケ丘町）でチャリティーイベントを開催。「釣りキチ三平」で知られる漫画家の矢口高雄さん、歌手の藤あや子さんら県出身者によるメッセージ入り色紙などのオークションや演奏会を行う。収益金はあしなが育英会に寄付する。参加費は食事代込みで6000円。問い合わせは事務局☎090・2173・2591。

ボランティア

山形市発の日帰りツアー 山形ボランティア隊と山新観光が7月の毎週土曜（2、9、16、23、30日）に行う日帰りボランティアツアーの参加者を募集している。6時半にJR山形駅東口、6時45分に山形県庁裏口前バス停を出発。宮城県石巻市（予定）でがれき撤去や屋内の片付けを行い、20時に帰着する。定員は各日53人。参加費は交通費込みで1000円。食事は各自で用意すること。ボランティア保険の加入も必要。申し込みは山形ボランティア隊のウェブサイト（http://teamyamagata.cloudapp.net/）、もしくは山新観光（☎023・641・8080）まで。
ピースボートが7月の参加者募集 ピースボートが宮城県石巻市で汚泥の除去や炊き出し、避難所の手伝いをするボランティアを募集している。8泊9日の長期と最短2日の短期がある。宿泊費は不要だが、往復の交通費に5000円かかる。出発前に説明会に参加する必要がある。
長期ボランティアは7月8～16日、15～23日、22～30日。金曜日22時に東京を出発、翌週土曜日の20時に東京に戻る。説明会は東京都内で2、9、16日の14時から開かれ、▽静岡県（2日）▽新潟県（3日）▽大阪府（9日）▽愛知県（10日）でも予定されている。
短期ボランティアは9～10、11～12、13～15、16～17、18～19、20～22日。活動日前日の21時15分に東京を出発、最終日の20時に東京に戻る。3、10日の14時から都内で説明会。説明会の予約はピースボート災害ボランティアセンター（☎03・3363・7967）。

医療

26日の各地の休日当番医は次の通り。
〈岩手県〉
久慈地区＝斎藤内科☎0194・53・3511▽宮古地区＝休日診療所☎0193・64・0113▽釜石地区＝岩井小児科医院☎0193・23・7573▽気仙地区＝菊田外科泌尿器科☎0192・26・4075
〈宮城県〉
気仙沼地区＝おだか医院☎0226・22・3210、三条小児科医院☎0226・23・0088▽桃生地区＝石巻ロイヤル病院☎0225・73・5888▽石巻地区＝石巻市立病院仮診療所☎0225・23・3200、ものうファミリークリニック☎0225・76・4024、ささき整形外科医院☎0225・22・3121、斎藤産婦人科医院☎0225・22・0707▽塩釜地区＝塩釜地区休日急患診療センター☎022・366・0630▽名取地区＝名取市休日夜間急患センター☎022・384・0001▽岩沼地区＝さとう純整形外科クリニック☎0223・25・4970▽亘理地区＝やべ内科クリニック☎0223・34・3003▽角田丸森地区＝金上病院☎0224・63・1032
〈福島県〉
相馬市＝桜ケ丘さいとう整形外科☎0244・35・1333▽南相馬市＝木幡歯科医院☎0244・46・2244、駒場内科医院☎0244・25・7711▽いわき市＝おおはらこどもクリニック（午前中）☎0246・63・0001、賀沢内科胃腸科医院☎0246・54・6200、門屋整形・内科☎0246・54・4047、こうじま慈愛病院☎0246・63・5141

商業施設

コンビニが営業再開 震災で休業していたファミリーマート歌津升沢店（宮城県南三陸町歌津升沢68）が24日に営業を再開した。ファミリーマートは6月に入り、仙台空港前店（岩沼市下野切新田1）、大洗磯浜店（茨城県大洗町磯浜町8253）などが営業を再開している。
白河市のスーパーも再開 震災の影響で休業していたヨークベニマル白河横町店（福島県白河市横町98）が24日に営業を再開した。オープニングセールとして、26日は先着で1000円以上の買い物をした1000人にアルカリイオン水専用ボトルをプレゼントする。

被災地研修 評判

三陸鉄道社員がガイド

岩手県沿岸部に路線を持つ三陸鉄道（盛岡市）の社員が被災地を案内する「被災地フロントライン研修」が注目されている。漁業関係者には港や養殖施設、公務員であれば役場など、視察の目的に合わせて行程を組み立てる。ガイド役を務める社員には津波で自宅を流された被災者もおり、自らの体験を踏まえ解説している。

不動産関係者の研修に同行し、解説する赤沼さん（左）＝岩手県宮古市田老地区で

震災後、被災地では見物の車で道路が渋滞したり、住民の心情を考えずにがれきの中を歩き回るなどの行動をする人が見られた。三陸鉄道は「被災地の正確な現状を伝えよう」とフロントライン研修を企画。5月の開始以来、口コミなどで評判が広まり、これまでに約40回開催した。
担当者は4人で、新しい正確な情報を紹介するため、被災地をこまめに訪れ情報収集。写真入りの資料を手作りして当日に臨む。

口コミで広まり40回開催

大分県の不動産関係者8人が参加した研修では、約1600戸が全壊した宮古市田老地区を訪問。港の端から防潮堤（延長約2・4キロ、高さ約10メートル）まで歩いた。同行した社員は地元在住で自宅を流された旅客サービス課長の赤沼喜典さん（48）。「津波を緩和させ、逃げる時間を作るための防波堤だったというが、当時は知らなかった」と打ち明けた。参加した不動産鑑定士の土師一弘さん（49）は「地元の人から詳しい情報を聞けた」と話した。
10人以上から申し込みを受け付ける。参加10人の場合、基本視察プランは1人2万7000円（1泊、夕食代含まず）。問い合わせは三陸鉄道（☎0193・62・8900）フロントライン研修係へ。
【久木田照子、写真も】

ヒマワリの種求む

ニーズ情報

被災者が求める物資や人的支援情報をお知らせします。必ず事前連絡をお願いします。

■遠野まごころネット
（岩手県遠野市）☎0198・62・1001
tonomagokoro@gmail.com
http://tonomagokoro.net/
うじ虫駆除の薬を 陸前高田市長部地区の避難所で、くみ取り式のトイレにうじ虫が大発生している。今後は気温が高くなるので、ハエと共に増えると予想され、うじ虫を殺す薬を要望している。薬局やホームセンターで「うじ殺しの薬」と言えば手に入る。可能であれば、薬だけを梱包（こんぽう）し、表に「うじ殺し在中」と明記をお願いしたい。

■ふくふくプロジェクト
（福島市）☎024・520・4533
f-ssc@bz01.plala.or.jp
http://www.f-npo.jp/
ヒマワリ、菜の花の種 **求む** 放射性物質の除去に効果があるとされるヒマワリや菜の花の種を、県内に植える活動をしている。これまで、学校、個人、NPO法人などに呼びかけ、約2万個のヒマワリの種を植えたが、すぐになくなってしまった。汚染された大地に植えるため、種を求めている。問い合わせは「花に願いを」プロジェクト（☎024・539・8908）の高橋さんへ。

気持ち和らげる絵本

絵本作家
島田ゆかさん
＝カナダ・オンタリオ州

東日本大震災が起きたのは、カナダの自宅で東京の編集者と連絡を取り合っている時でした。日本でどんなことが起きているのかわからず心配でした。翌日から数日間、震災のニュースを見続けました。つらい気持ちになりましたが、見ずにはいられませんでした。

4月下旬、東京で開かれた原画展に、被災地から埼玉県へ避難していた親子を招いて、読み聞かせの会をしました。その時1人のお母さんが「子どもたちは絵本を読んでいる時は、怖いことや嫌なことを忘れられるようです」と話していました。絵本は32ページしかないものですが、子どもを一時でも安心させるすごい力を持っているんだと、改めて思いました。

東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る「いっしょだよ」キャンペーンに取り組む財団法人大阪国際児童文学館、大阪府書店商業組合、毎日新聞社、毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団は、本の配布先を募っています。本を失い、必要としている学校、幼稚園、保育所、児童館、地域文庫などが対象です。施設や子どもの人数、年齢などに応じて本を選んで購入し、汚れや破損を防ぐ保護カバーをつけて届けます。避難所の場合は、閉所後に学校図書館などへの移管をお願いします。
問い合わせは（財）大阪国際児童文学館「いっしょだよ」キャンペーン事務局（06・6744・0581。http://www.iiclo.or.jp/）へ。
寄付金は毎日新聞大阪社会事業団（郵便振替00970・9・12891）へ。通信欄に「子どもの本」、紙面掲載で匿名を希望される方は「匿名希望」と明記ください。

作品を作っているときは、絵本がどんな役に立つとはわからずに描いています。絵本はすぐに役立つ道具ではないけれど、気持ちを和らげ心のよりどころになると、読者の皆さんから教えてもらいました。絵本の世界に入っていく子どもたちの役に、少しでも立ちたいと思っています。
【聞き手・木村葉子】

伝言板

未使用食器 譲ります

▼半袖Tシャツと長袖の作業着送ります 三重県玉城町の小竹さん（68歳、女性）が、男性用の新品の半袖Tシャツ41枚と、上下セットの長袖作業着4組を、被災した方に無料で送ります。Tシャツは、半袖で綿100％。色はグレーで胸の部分に英語のプリントがしてあります。サイズはLとLL。作業着は長袖で色はベージュ、新品で上下セットです。「身内が東北なので被災地にいって現状を見ました。希望の方は080・6962・2519へ連絡してください」
▼未使用食器など差し上げます 仙台市青葉区の軍司淑子さん（64）が被災した方に無料で送ります。以下は未使用で▽中鉢（直径15㌢）9個▽ふた付き汁わん5個▽そうめんにも丼ものにも使える山中塗どっしりわん（直径15㌢）と小鉢（直径10㌢）、スノコのセット5点▽柄がさまざまなぐいのみ12個▽厚手のガラスコップ10個▽ニッカ社名入りガラスコップ12個▽ガラス製タンブラー5個▽弁当箱とミニ水筒がケースに入った子供用ランチボックス1点。
中古ですが▽竹製の舟形おしぼり置き（長さ14㌢、幅8㌢）10個▽幼児用水洗トイレ便座（ベージュ、便座カバー付き）1点もあります。「おしぼり置きは店を再開する人にいいのでは。便座は孫が半年ほど使いました。バラバラでも送りますので希望の品と住所、氏名、連絡先を自宅のファクス（022・226・2824）に送ってください」

声 被災者から

宮城

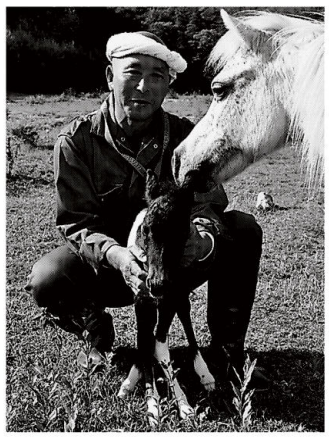
頑張り踊る姿見て

すずめ踊りを披露する「六郷すずめっこ」の阿部文さん

仙台市中心部のイベントで仙台名物「ずずめ踊り」を披露したグループ「六郷すずめっこ」の阿部文さん（50）「約60人で出演しましたが、避難所から会場に駆けつけたメンバーもいます。多くの方々から支援されているので、少しでも頑張っている姿を見せたいと思っています」
若林区の3分の1が津波にのまれ、今でも畑に車が残っています。早く緑が多い元の姿に戻したいです」
【須藤唯哉】

福島

飯舘村で牧場を営む細川徳栄さん（59）「原発事故後に半径20～30㌔圏内の牛や馬を、畜産農家の依頼で引き取ってきました。持ち主に代わって遠くの牧場に移送したり、売却したり。引き取った数は500頭を超えます。浪江町から3月末に引き取った馬が6月、子馬を産みました。引き取っていなければ誕生しなかった命です。現在牛60頭、馬30頭が牧場にいます。馬はなかなか避難先が見つかりませんが、資金が続く限り世話を続けていきたいです」
【桐野耕一】


生まれたばかりの子馬を抱える細川徳栄さん

ミニニュース

■あしたの本プロジェクト始動 日本国際児童図書評議会▽日本ペンクラブ▽日本出版クラブ▽出版文化産業振興財団の4団体は、被災地の子どもの読書活動を支援する「子どもたちへ〈あしたの本〉プロジェクト」を発足した。7月2日14～16時、ゲートシティホール（東京都品川区）で、チャリティー講演会「作家が語る被災地と〈あしたの本〉」を開く。
盛岡市在住の柏葉幸子さん、被災地でボランティア活動をした森絵都さん、被災地支援のNPO活動に取り組む斎藤純さんらが講演する。対象は中学生以上。入場料は500円で、全額を被災地支援にあてる。申し込みは往復はがきの場合、返信はがきの表に住所、氏名を記入し、往信はがきに参加希望人数を書き添えて〒103−0026東京都中央区日本橋兜町20の3 日本ペンクラブ「あしたの本講演会」係へ。メールは件名を「あしたの本講演会参加希望」として、氏名と参加希望人数を書いてsecretariat03@japanpen.or.jpに送る。29日必着。

■被災地へボランティアに行くには■

各地の災害ボランティアセンター（VC）が被災地で活動するボランティアを募っている。電話で問い合わせる前に各サイトで情報の確認を。また、被災地に赴く前に居住地の社会福祉協議会でボランティア活動保険に加入することが望ましい。主なVC窓口は次の通り。
＜岩手県＞
県VCや各社協が内陸部に拠点を設け、沿岸部の被災地に送迎バスを出している。
◆県VC ☎019・637・7594 サイトでは個人参加できるボランティアバスの運行状況や各VCの募集情報を公開中
◆遠野市VC「遠野まごころネット」 ☎0198・62・1001 遠野市総合福祉センター発着便で沿岸部の被災地に毎日ボランティアを派遣。登録も随時受け付け。要事前申し込み。寝袋持参で体育館宿泊可
◆宮古市VC ☎090・4478・3984 個人、団体とも1週間前までに電話連絡を
◆陸前高田市VC ☎090・2852・9736 できるだけ2人以上で参加し、3日前までに連絡
◆大槌町社協VC ☎080・3518・8490 5人以上の団体で要事前登録。個人参加は県VCの盛岡発ボランティアバスを利用する
＜宮城県＞
各VCが県外からの個人ボランティアも受け付けている。詳細は各VCのサイトで。
◆仙台市VC ☎022・231・1326 5人以上での参加は先着50人まで、要事前申し込み
◆石巻市VC ☎0225・23・6015 10人以上の団体は要事前連絡
◆気仙沼市VC ☎080・5949・7475 10人以上の団体は3日前までに事前連絡
◆名取市VC ☎022・784・3029 団体は要事前問い合わせ
◆多賀城市VC ☎080・5949・7501
◆岩沼市VC ☎080・5949・7541 8人以上の団体は要事前申し込み
◆東松島市VC ☎0225・82・9812 車中泊スペースあり。土のう袋をなるべく持参。5人以上のグループは早めに事前申し込みを
◆亘理町VC ☎080・5949・7719 団体は要事前申し込み
◆山元町VC ☎080・5949・7720 要事前申し込み
◆七ケ浜町VC ☎090・6853・4490 団体は要事前申し込み
◆南三陸町VC ☎080・2055・1066 県内外問わず団体も受け入れ中
＜福島県＞
◆県VC ☎024・522・6540
◆相馬市VC ☎0244・36・7827
◆南相馬市VC ☎0244・24・1877 公式ホームページで活動内容や注意事項の確認を
◆新地町VC ☎0244・62・5577 要電話確認。毎週木曜は活動休止日。テント泊、車中泊は禁止
◆いわき市VC ☎0246・22・5501 団体は要事前申し込み
＜福島県＞
◆広野町 FDKモジュールシステムテクノロジーいわき工場 0246・43・1331
◆楢葉町 会津美里町本郷庁舎0242・56・2155
◆富岡町 郡山・ビッグパレット 0120・336・466
◆川内村 郡山・ビッグパレット 0120・38・2119
◆大熊町 会津若松市追手町第2庁舎0242・26・3844
◆双葉町 旧埼玉県立騎西高校0480・73・6880
◆浪江町 県男女共生センター（二本松市）コールセンター 03・5638・5055
◆飯舘村 福島市飯野支所内024・562・4200
◆葛尾村 旧法務局会津坂下出張所 0242・83・0271
★一時立ち入り受付センター0120・208・066 警戒区域9市町村への一時立ち入りを申し込める。8～20時

◆電◆話◆帳◆

●行方不明者・震災関連相談ダイヤル
岩手県警 0120・801・471
宮城県警 022・221・2000
福島県警 024・522・2151（内線3024）
●医療
文部科学省健康相談ホットライン・放射線関連 0120・755・199（9～18時）
放射線医学総合研究所相談窓口 043・290・4003（9～17時）
●生活支援
日弁連電話相談0120・366・556（平日10～15時）
岩手弁護士会 0120・755・745（月～土曜13～16時）
仙台弁護士会0120・216・151（平日10～19時）
福島県弁護士会024・534・1211（平日14～16時）
あしなが育英会 被災者専用 0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
チャイルドライン 0120・99・7777（月～土16～21時、18歳までの子ども向け）
震災関連の悪質商法110番 0120・214・888（10～16時）
●省庁 ※平日のみ
公営住宅等情報センター 0120・297・722（9～18時。全国の公営住宅などを紹介）
住宅の補修・再建（国交省） 0120・330・712（月～土）
行政相談（東北管区行政評価局） 0120・511・556
金融相談（東北財務局） 022・721・7078
中小企業相談（経産省） 0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省） 0120・355・567
年金の相談（日本年金機構） 0120・707・118※
●金融・保険 ※平日のみ
預金口座照会センター（全国銀行協会） 0120・751・557※
災害地域生保契約照会センター（生保協会） 0120・001・731※
そんがいほけん相談室（日本損保協会） 0120・107・808※
携帯・PHSからは03・3255・1306※
●移転した役所
＜岩手県＞
陸前高田市 高田町鳴石 0192・54・2111
釜石市 シープラザ釜石 0193・22・8253
大槌町 大槌小学校 0193・42・2111
＜宮城県＞
女川町 女川第二小学校 0225・54・3131
南三陸町 町総合体育館ベイサイドアリーナ南側テニスコートの仮庁舎 0226・46・2600